

平成22年度終了課題に係る終了評価書

研究機関 : (株)ピクセラ、富士通セミコンダクター(株)
研究開発課題 : マルチバンド ISDB-T システムの研究開発
研究開発期間 : 平成 22 年度
代表研究責任者 : 近村 隆夫

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 S

■ 総合評価点 : 52点 / 60点

(総論)

総務省の政策に極めて密着した研究開発課題であり、強い産官連携の体制の下、研究開発と同時進行で成果の普及・展開、国際標準化活動などへの取組が行われ、有効な成果が得られており、今後とも官のイニシアティブの下での積極的な展開を期待する。

(コメント)

- 現時点までにおいては、極めて成功しているプロジェクトと言えるが、今後国際標準化が広く達成された後に日本の産業力の進展とリンクする取り組み(仕掛け)を考えるべきである。
- 本課題では、目標値を十分満たす低価格・低消費電力・高機能な受信機の試作が行われており、今後の ISDB-T の世界展開において国内メーカーが優位に進出できる基盤技術を提供している。また、初期の仕様以外にも展開に有利な技術が組み込まれており、今後の発展が期待できる。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 9点

(総論)

国際競争力の強化を主眼に、緊急警報放送や省電力化への対応などの適切な研究目標が掲げられ、政策と連動し、成果の普及・展開に一体的に取り組んでおり、有効なプロジェクトであると認められる。

(コメント)

- 政策的位置づけが優れている。
- タイムリーな研究開発である。
- マルチバンドISDB-Tシステムの国際展開に対して、極めて有効なプロジェクトである。
- 国内メーカーの進出が有利になるような技術をいち早く開発することに意義がある。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

適切な連携体制の下で共同研究機関が各々の特長を有効活用して取り組むことで、効率的な研究開発マネジメントが行われたと認められる。

(コメント)

- 企業の連携も良好であったように判断される。
- 効率的なマネジメントのおかげで、委託費を超えると判断される中でも多数のLSIを開発している。
- 一年間という短い期間で組織的な研究活動が実施されている。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 9点

(総論)

目標は十分達成しており、既に事業化が進められるなど、進歩的な成果等が認められる。

(コメント)

- 現時点で考え得る、あらゆる機能を追加した物を開発にしたことは高く評価出来る。
- 個々の目標値は高いレベルのものでは無いが達成されている。
- 目標値以上の性能の達成できている項目も多数あり、十分に目標が達成できていると考えられる。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

南米諸国で実証を行うなど、成果の国際的な展開に向けた活動を積極的に行っている。我が国の国際競争力強化に資する知財への取組みにも期待したい。

(コメント)

- 技術開発に加えて、海外での実証等一定の活動を実施している。
- 国際展開のための成果説明会などを有効的に実施している。
- 知的財産権に対する取組みがやや弱いので、今後の取組みに期待。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 9点

(総論)

本研究開発成果は、既に実用化されており、今後の製品の国際展開に向けての取組みも着手されており、官民連携して着実に社会展開を行っていくことが重要。

(コメント)

- 今後は総務省を中心とした官民連携を一層進め、更なる社会展開に期待したい。
- 標準化のためにも有効な開発であった。一層積極的に展開して欲しい。
- 広範な技術に対応できる汎用的な受信機を試作しており、他国での ISDB-T の採用が決まれば速やかに対応できるようになっている。
- 本研究開発により、アジアやアフリカなどで求めやすい価格帯の製品供給が可能になる。